

平成29年度 北海道立総合博物館協議会

アイヌ民族文化研究センター専門部会 議事概要

会議名	平成29年度北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会
開催日時	平成29年11月16日(木) 13時30分～15時
開催場所	北海道博物館 講堂
出席委員	澤田一憲部会長、大島稔委員、児島恭子委員、酒井奈々子委員、 関根真紀委員、中村吉雄委員
出席者 (博物館、本庁)	石森館長、梅木副館長、中村副館長、小川センター長、川田総務部長、 舟山学芸部長、甲地研究主幹、右代学芸主幹、会田学芸主査、遠藤研 究職員、村上学芸員、林主査(文化振興課)、中村主査(アイヌ政策 推進室)
傍聴者	なし

【議題】

(1) 報告事項1

平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会(中間外部評価)の結果について
・資料2-1ならびに2-2に基づき、平成29年度第1回北海道立総合博物館協議会(平成29年9月12日開催)において実施した、「北海道博物館 第1期中間目標・計画期 中間外部評価」(平成27・28年度の内部評価に対する評価)について、方法ならびに結果を事務局から報告した。

(2) 報告事項2

アイヌ民族文化研究センター平成28年度事業実績及び平成29年度計画について
・資料3に基づき、アイヌ民族文化研究センターの平成28年度事業実績について、事務局から報告した。
・資料4に基づき、アイヌ民族文化研究センターの平成29年度事業計画について、既に実施した事業についての報告も交えながら、事務局から説明した。
・主な要望・質疑応答は以下のとおり。

- (1) 企画テーマ展「カムイとアイヌのものがたり」ならびに関連講座について
(委員) 「行事あんない」における表記の仕方や言葉の使い方については、もっと配慮と工夫がほしいと要望したい。
- (2) 子ども向けのアイヌ語講座について
(委員) 中高生まで対象とした子ども向けのアイヌ語講座を、単発の講座だけではなく、年に何回かでもよいが、できれば常時対応できるような形で実施することを要望したい。
- (3) 資料収集・整備について
(委員) 資料の収集・整備事業については、具体的にはどのようなことを、どう進めているのか。

- (事務局) 昨年度から今年度にかけて、当センターでは弥永資料(アイヌ民具)ならびにキーステン・レフシン資料(アイヌ語音声資料)を受け入れた。基本的には、資料受入れ時に調査を行っているため、報告できるものについては『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』に記載している。キーステン・レフシン資料については、今後調査するところである。
- (委員) 新規登録資料だけではなく、これまでに受入れた資料の整理は進んでいるのか。
- (事務局) 旧道立アイヌ民族文化研究センター時代に受入れた、山田秀三文庫・久保寺逸彦文庫については、未整理の部分も残っているので、点検・公開を順次進めていく。
- (委員) 博物館の基礎となる事業なので、予算化も含めて、しっかり行ってほしい。

(4) ガバナンスについて

- (委員) 報告事項1にあった「中間外部評価」において、ガバナンスの項目の評価が低かったが、研究センターのガバナンス(事業実施のための仕組み)について教えてほしい。
- (事務局) 本庁(文化振興課)と北海道博物館との関係においては、新しい仕組みをすぐに構築することはできないため、連絡を密に取ることで、意思疎通を図ることを意識している。研究センター内については、過年度からの取り組みどおり、定期的に打ち合わせを行うことで、それぞれが担当している事業の進捗状況の確認が取れる体制をめざしている。

(5) 国立アイヌ民族博物館との連携・協力体制について

- (委員) 2020年に白老にオープンする国立アイヌ民族博物館との協力・連携体制はどのようになっているのか。また、白老だけに人が集まることにならないよう、北海道博物館としては、札幌を拠点として、どのようなことを考えているのか。
- (館長) 道内外の連携が必要だと考えている。そのため、各地域からも意見をあげてほしい。また、北海道博物館としては、道内の中核的博物館としての役割を引き続き果たし、博物館同士の連携に寄与したい。

(3) 今後のスケジュールについて

- ・資料5に基づいて、平成29年度の協議会スケジュールについて事務局から説明した。

(4) その他

- ・北海道博物館(旧開拓記念館)に寄贈された小嶋コレクションについて、意見ならびに質疑応答があった。
 - (委員) 展示会は行ったのか。また、膨大な数の資料を寄贈した小嶋氏の功績は道の文化賞等に相当すると思うため、表彰の提案をしたい。
 - (事務局) 展示会については資料受入れ直後に開催した[平成23年度開催]。ただし、このとき登録できなかった資料も多く、これらは昨年度に追加登録を行っている。これらの追加資料も含めて、何らかの形で展示に利用することや寄贈の功績に応えるということは要望として受け止めたい。